

学校だより2月号

平成29年2月16日

## ダイバーシティ ( Diversity )

目黒区立大鳥中学校

校長 牛島 順子

〒153-0064

下目 黒3-23-18

TEL

3714-3694

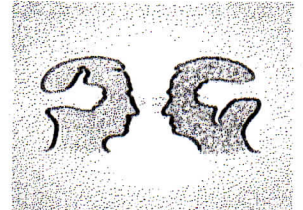
教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、国際社会で大きく羽ばたく生徒を育成する。

「自主 協働 創造」



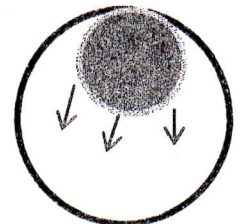
### Positive Behavior Support (良さを認める指導)



私ごとで恐縮ですが、私の指導観を少しご紹介しますと、私は30年程前の校内暴力吹き荒れる時代をやっと乗り越えてきた者として、生徒と学校との信頼関係が何より大切であると、苦労しながらたどり着きました。ダメダメと禁止事項を示すより、生徒に考えさせる。生徒の力を認め、自信をもたせ、意欲につなげる肯定的な指導が何よりも効果的であると長年実感してきました。PBS という専門の知識はありませんでしたが、経験則でそう考えたのです。そして今、2年間の統合新校を振り返っている瞬間、この方針で進んで来て良かった、この方法は間違いではなかったと確かな手応えを感じているところです。

【PBS とは】ピコ太郎のPPAP が流行っているようですが、それとは違います。PBS は行動分析学に基づいており、前向きで積極的な態度や良い行動を応援し、望ましい行動を増やしていくという考えです。人はややもすると、相手のダメなところ、欠けているところ、うまくできないところに目がいきがちで、ダメなところを正そうとします。しかし、このPBS は発想が逆です。ダメなところばかりに注目するのではなく、できているところや良い行いにスポットをあて、褒めたり認めたりすることで、良い行いを増やしていくという考え方です。

右の円で考えますと、一日の行動が大きな円、その中で黒い部分がその人の良い行いの部分とします。黒色の良い行いを増やしていけば、まだ未定で、もしかしたら問題行動となる可能性もある白い部分を良い行いで埋めていくことができるという考え方です。



そして、人はある行動をおこした直後に、その人にとって良いこと（ご褒美）があると、その行動は継続されていく。それを、「強化の原理」というようです。

「褒める（賞賛する）→ 自信がつく → 善い行いが増える → 褒める」のサイクル

このサイクルは行動だけではなく、お勉強においても同様です。生徒面接では、「得意な分野を伸ばすことで、得意な教科が増えてきた。苦手教科にも挑戦し始めた」という話をよく聞きました。集団でもそうです。前向きな人が頑張ることで、前向きな人に影響されて、前向きな人達が増え、良いサイクルが生まれていく。このサイクルは、大鳥中においても「ガッテン」でした。

【大鳥中では】統合1年目、夢のように三中・四中の融合がうまく運びました。じょうずにとけ合いました。大人が驚く程の仲の良さ、友達が増えて良かったという肯定的な声に、皆で喜び合いました。両校の良さを引き継ぐ素晴らしい姿に褒めることが増え、いつの間にやら BEYOND（予想以上の成果）という褒め言葉まで登場しました。5月の運動会から9月区連体、10月飛翔祭と BEYOND が続きました。2年目の今もそうです。1期生の立派な姿を見ると良い影響が伝播するものです。今年も3年生を筆頭に全校生徒が前向きで、楽しさも加わった BEYOND の大鳥中です。

その結果、先般の統合に関するアンケートでは約8割の方から「統合して良かった」の回答をいただきました。予想以上 BEYOND の結果をいただきました。生徒の力は凄いです。応援していただいている皆様にも感謝申し上げます。

